

## **第 9 回周術期危機管理セミナー**

### **(深部静脈血栓症周術期危機管理編)を開催して**

大阪医科大学麻酔科学教室助教・教育主任 駒澤伸泰  
(医療技能シミュレーション室副室長)  
大阪医科大学麻酔科学教室准教授 澤井俊幸

大阪医科大学附属病院で麻酔科医、手術部看護師が参加した深部静脈血栓症対策に対する周術期管理チームトレーニングセミナーを実施しましたので紹介します。

セミナーは 2017 年 3 月 4 日に「第 9 回周術期危機管理セミナー」として大阪医科大学附属病院中央手術室にて開催しました。北摂総合病院、第一東和会病院、市立ひらかた病院、松下記念病院、高槻赤十字病院の看護師と田中源重院長代行、西原功手術センター長、辻井英治麻酔科部長、三根大乘麻酔科主任部長も参加されました。コーディネーターは駒澤と澤井俊幸准教授が勤めました。麻酔科医 9 名、研修医 1 名、手術室看護師 37 名の合計 47 名が参加しました。

コース内容は、事前学習資料を受講生に 1 ヶ月前に私、質問をいただき、それに澤井先生と中央手術室看護師灘本武教育担当主任が解答する形式で行いました。その後、各病院ごとの深部静脈血栓症対策に関することや、医療技能シミュレーション室で下肢のシミュレーターや間欠的下肢圧迫装置を用いて実習を行いました。

コース終了後にもアンケートを行い「個人が注意すべきこと」と「システムとして改善すべきこと」を提示してもらい、共通の改善課題を抽出しました。

今後も、多職種・多病院・多診療科で参加・討議し、周術期医療安全を向上させるこのセミナーを継続開催していきたいと思えます。

## 第9回周術期危機管理セミナー案内

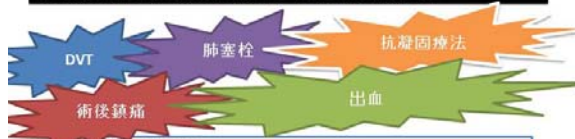
### 第9回周術期危機管理対応セミナー 深部静脈血栓症編

日時：2017年3月4日(土) 12:15～16:00  
 場所：第12会議室(大阪府高槻市大学町2番7号)  
 対象：麻酔科医・ME・研修医・手術室看護師  
 定員：麻酔科10名、研修医5名、看護師30名  
 集合は、外来棟6階 第12会議室に集合してください  
 (12:15より製品説明会があります)

周術期DVT対策  
 を多職種でしっかりと学ぶコース

院内受講希望の方は、  
 麻酔科駒澤まで  
 ane078@osaka-med.ac.jp

<開催目的>  
 今回は、手術室におけるDVT対策について学びたいと思います。



<プログラム概要(予定)>  
 12:00～ 受付開始  
 12:20～ 深部静脈血栓症対策  
 14:30～ DVT対応のシナリオディスカッション(小グループ)  
 15:30～ 全体討論  
 16:00～ コース総括・修了証授与

コーディネータ： 澤井俊幸・駒澤伸泰 (大阪医科大学麻酔科学教室)  
 インストラクター： 中山舞 (大阪医科大学附属病院看護部)  
 藤本武 (大阪医科大学附属病院看護部)  
 船越王 (松下記念病院麻酔科)  
 三喜大衆 (市立ひらかた病院麻酔科)  
 西原功 (北摂総合病院麻酔科)  
 田中潔重 (第一東和会病院麻酔科)  
 辻井英治 (高槻赤十字病院)  
 開催協力部門：医療技術シミュレーション室、医療安全管理室  
 開催協賛責任者： 南敬明 (大阪医科大学麻酔科学教室)  
 合同開催：北摂総合病院、第一東和会病院、  
 ひらかた病院、松下記念病院、高槻赤十字病院

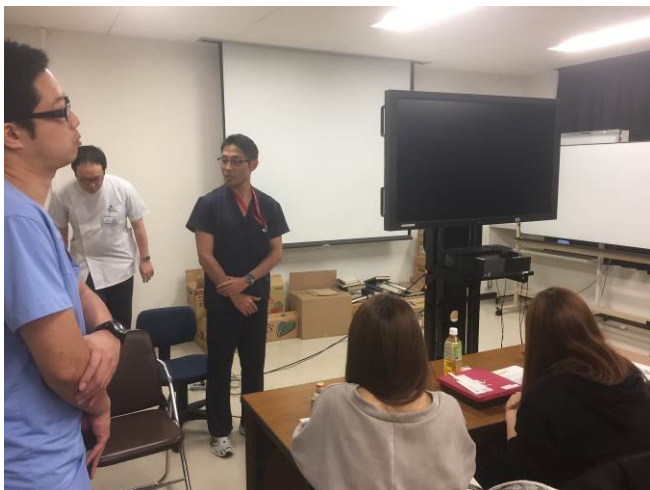


## 時間割

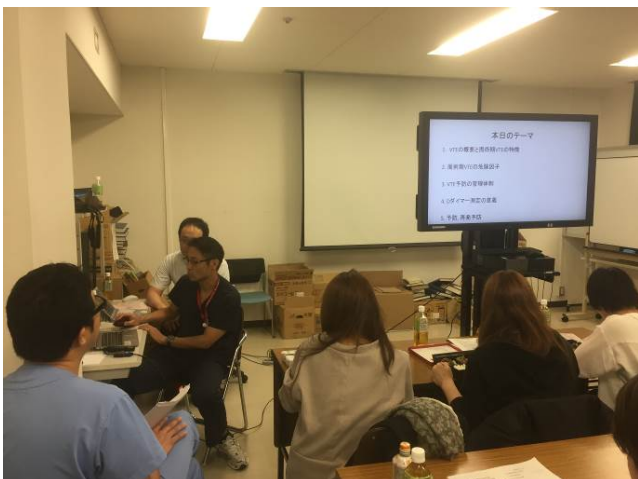
	学習内容
プレテスト(15分)	受講前の深部静脈血栓症対策に関する知識を確認
講義と質疑応答(45分)	周術期管理チームテキスト、手術医家の実践ガイドライン、肺血栓塞栓 症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドラインおよび事前アンケートに回答する形式で施行
弾性ストッキング装着と間欠的下肢圧迫装置 (30分)	テーマ①: 間欠的下肢圧迫装置の使用法と装着体験 テーマ②: 弾性ストッキング作成と装着体験
ワークショップ(30分)	テーマ①: 各病院における深部静脈血栓症対策の考え方について議論 テーマ②: 病棟-手術室間の深部静脈血栓症対策について議論
全体ディスカッション (30分)	テーマ①: 術前-術中-術後の連続性のある予防法について議論 テーマ②: 病院間の深部静脈血栓症対策について議論
ポストテスト(15分)	受講後の深部静脈血栓症に関する知識を確認

## 開催風景

## 澤井俊幸による挨拶



## 澤井俊幸准教授による深部静脈血栓症の講義



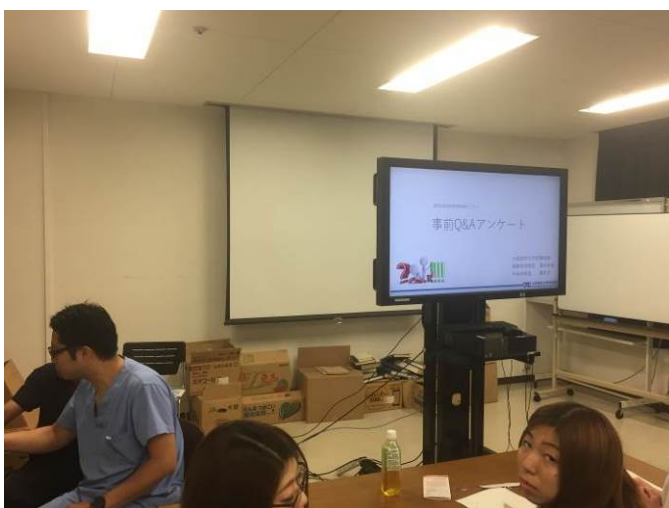
## 森本賢治先生による肺塞栓症例経験の報告



中央手術室灘本武教育担当主任による深部静脈血栓症に対する当院対応の講義



澤井准教授、灘本教育主任による事前 Q&A 解説



参加者は教育病院群 6 病院で併せて 47 名

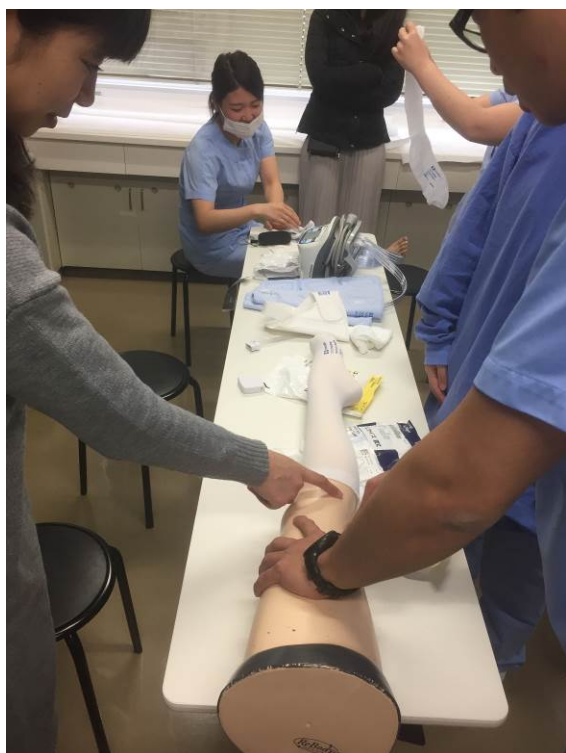


麻酔科医、手術室看護師合同のsmallグループディスカッション





シミュレーターを用いた弾性ストッキング装着実習



## 間欠の下肢圧迫装置体験



## 総合討論



灘本武手術室看護師教育担当主任、西原功北摂総合病院手術センター一部長による総括



全体集合写真





受講後アンケート（個人およびシステム改善点）

質問	回答の内容
<p>本講習会を受けて、深部静脈血栓症対策において皆様「個々の医療者」が改善しようと思ったことを教えてください</p>	<p>視診でも常に下肢内径を観察する                      全症例にDダイマーを確認する                      全症例に深部静脈血栓症評価を行う                      深部静脈血栓症ガイドラインの定期的な復習                      弾性ストッキングや間欠的下肢圧迫装置の位置確認</p>
<p>本講習会を受けて、深部静脈血栓症対策において「医療システム」の面で改善した方がいいと思っただけを教えてください</p>	<p>予防法で悩んだ際のコンサルテーション先設定                      より明確な予防法選択基準の策定                      緊急手術時の対応明確化                      病棟—手術室間の申し送り必須事項の設定</p>
<p>深部静脈血栓症対策の多職種・多診療科連携で改善した方がいいと思っただけを教えてください。</p>	<p>申し送り時の項目設定                      多職種が理解できる用語統一                      各診療科ごとのDVT対応の必要性                      タイムアウト時の確認の重要性</p>
<p>深部静脈血栓症の薬剤療法に関して改善した方がいいと思われることを教えてください</p>	<p>各凝固薬の術後出血量への影響を把握する                      投与時期と量の明確化                      各診療科ごとの投与プロトコール策定</p>
<p>深部静脈血栓症の理学療法に関して改善した方がいいと思われることを教えてください</p>	<p>初回歩行時のリスクマネジメント                      肺塞栓を疑った際の院内蘇生プロトコール</p>